

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「憩いの里」さくら
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	岐阜県羽島郡岐南町徳田7-73-1
記入者名 (管理者)	西村 俊之 野田 生子
記入日	平成 20年 5月 11日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社としての運営理念は根付いている、しかしホーム独自の理念は定着していないが、日々の生活の中で地域への密着性は自然と生まれてきている。	自治会参加、公民会のイベント、地域のボランティアなど活用している。今後は近隣の学生就職体験などでさらに地域との密着性を高めていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者主体のサービス提供や高い志を持って取り組めるように、社内研修、勉強会、会議を行っているが、職員のレベルに格差がありすべての職員が理念を共有し実践しているとは言えない。	単独の事業所ではないので、他ホーム間での職員交流や委員会への参加にて職員のレベル向上に取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議等を通し地域密着について討論を行っている。	グループホームの運営は地域の人々の協力の上でよいケアが出来、かつ緊急時や災害時には近隣の協力が不可欠なことを説明し取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会はもちろん、清掃活動などにも参加し交流の機会を持つようにしている。近隣の夏祭りやイベントなどにも利用者様と参加させて頂き関係作りを行っている。	回覧板等を使用させていただき、ホームでの活動や緊急時や災害時には近隣の協力が不可欠なことを説明して行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	購買は近隣を活用、自治会にも参加、公民館の利用も行っているため、気軽な付き合いの人々が増えて来ている。ホームのイベントにも子供会や近隣の方々に協力していただけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の際に災害時の一時避難所に申し出たり、24時間管理を生かして子供110番を行っている。		介護教室や体験介護教室を地域の方々に参加していただいで開催したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で出された課題に対し職員全員で取り組み、環境づくりや、サービスの改善に取り組んでいる。また、措置の時代の古い考えを改善して、時代の求めるサービス提供が出来るように教育も行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で利用者様の状況やサービス内容について話し合いを行っているが、外部評価などのシステムや行政関連、運営についての込み入った内容には至っていない。		運営推進会議でのご家族様の意見は出来る限り現場に早く落として、サービス向上に反映するように努めており、直接意見の聞ける大切な機会を無駄にしないように努力している。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	リーダーホーム長以外は町、担当者との接点を持っていない。		今後は一層に話し合う機会を設け、さまざまな意見を頂き、サービスの向上に努めていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一般職員はさまざまな制度を目にすることはあるが、しっかり把握はできておらず勉強不足である。しかし、管理者やリーダーは実際に申し立ての家族様の相談に乗り、深い理解がある。		福祉にか関わる制度を理解するためにも、学ぶ機会をつくり、必要な方々に安心して生活していただけるように努めた。また、権利擁護の名の下に利用者様の権利を奪いかねないことも理解して取り組みたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアー会議や全体集会を通じて虐待の形態について理解を深めるとともに、我がホームは言葉の拘束も身体拘束も薬物拘束も認めないという方針の理解を徹底している。		常識という感覚には人それぞれの基準があること、当たり前と思うことも人それぞれであるところを、もっと深く理解し利用者様一人ひとりの自分らしさを生かすケアを実施して、個性を殺すという実態のない虐待も無くしてゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホーム長に任せるのではなく、施設見学、事前面談、アセスメントに現場スタッフが立会い説明することで家族様や利用者様の不安や疑問に答え納得を得られるように努力している。解約の際もリーダー・管理者と家族様の話し合いを十分にこなしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議では利用者様に参加をして頂き発言の機会を設けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>担当スタッフは利用者様のご家族に手紙を出したり、利用明細に状況報告を写真入りで同封したりして暮らしぶりを知って頂けるようにしている、職員の異動については担当利用者様に必ずあいさつを行い告知している。</p>	<p>介護職員の離職が多く、会社の規模も大きく異動も頻繁であるため、家族様や利用者様の理解を得られるようなシステム化が必要と思っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>本社では、定期的にアンケート調査を行い結果をホームに返し反映出来るようにしている、また、ホーム内にも意見、苦情の申し入れ先を掲示し意見箱も設置している。</p>	<p>苦情や意見は直接に職員や管理者に伝えてくださる家族様が多い。それらの意見は貴重と思いきやすぐにフロアーに落とし改善できる事は改善し、職員全体にも告知し同じ苦情が出ないように取り組んでいる。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は管理だけでなく、業務に参加することで職員との関係作りを行い、提案や意見の吸出しを行い、相談事にも関わっている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>交流や研修を活用して他ホームから余人を活用。管理者もシフトに参加し柔軟な対応が出来るかぎり行えるように努めている。</p>	<p>時に結婚や妊娠、病気などが重なり職員の確保が難しい状況も生まれる為、余分な人員を常に確保していきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人員の問題が利用者様や家族様に影響を起こさないように、職員にピアヘルパーを配置し、家族様に説明の機会を設けたりして、配慮している。</p>	<p>利用者様も家族様も馴染みの環境の中で安心して生活を送っていただきたいと望んでいるが、防げない離職も多くある。社内研修や近場からの雇用など工夫はしているが、職場環境の改善により離職をもっと防ぎたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の告知、社内研修の実施、ホーム内での勉強会、社内研修を段階的指導を時間をかけて行っている。また、資格手当や社外研修手当、資格取得の支援も行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、地域包括支援センターの会合などに参加しケースワーク等も行っている。社内の近隣ホーム間とも連携を取りケア向上委員会や事故対策委員会、サービス向上委員会を職員間で立ち上げホーム間相互でのサービスの質の向上に努めている。	委員会への一般職員の参加が少ないので、今後は参加者を増加させる取り組みを行っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ピアカウンセリングを職員に配置し人員配置や相談業務を行っている。管理者、リーダー、ピアカウンセリングの担当者のストレス軽減のため統括ホーム長を配置し取り組んでいる。	環境委員をホーム内で選任し、職員の職場環境改善にも取り組みたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の個々の事情を配慮し働きやすい勤務状況になるよう工夫している。また、得意な事柄を伸ばし、苦手な事柄を学べるように配慮している。	コンピテンシー評価にて、努力の見られた職員の給料に反映するようにしている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事前に訪問し、ご本人の意向を聞き、その意向に基づき、どのようなサービスを受けていただくのか説明をしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どのような事で悩まれているか、ゆっくりお話を伺い、ご家族様と相談をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際は、グループホームの説明の中でよい点悪い点、リスクも含め説明を行っています。入居が適当でないと判断した場合でも、他のサービス機関の紹介や説明を行います。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族様には本人が納得して入居を受け入れられるか、体験入居を勧めて等、その方の状況に応じて柔軟に対応を行っている。		入居される方の中にはある程度まで、ご家庭で介護され、家庭での介護が困難となり入居されることが多く、本人様が入居の理解を得るのが困難にまで、認知症の進んでいる事が多い。そういった状況での本人様の不安な心理状況に対応できるシステム作りが必要と考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する、介護される、という立場ではなく共同生活を営む共同体の一員として感じていただけるような関係を築ける事がプロの介護職だとの指導を行っている。		利用者様の個性や残存能力を理解して、その方のペースでその人らしく生活できるように、個別ケアに重点を置き職員の育成を心がけている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援を仰げるご家族様には、ご家族にしか出来ない援助の部分を支援して頂き、本人様の孤独感や不安の軽減を担って頂いている。		ご家庭の事情等で協力出来ない御家族様にも、電話や手紙、写真などで協力していただき、共に協力をい利用者様を支えている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人様と家族様の過去の関係に配慮しつつ、関係の距離感が近づくように働きかけており、イベントのお誘いや、定期的状況報告、面会時の懇談などを行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様以外にも、お友達や知人が気軽に立ち寄り、電話もできる様に支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	コミュニケーション介助や、利用者様同士の関係作りのための外出支援等、ホームでの生活が有意義に感じるような利用者様同士の関係作りを支援している。		耳の遠い方とその他の方とのコミュニケーション介助や、利用者様同士の関係作りのための外出支援等、ホームでの生活が有意義に感じるような利用者様同士の関係作りを支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方が、何を望まれているかを把握し、穏やかな生活を送ることができるよう、ケアプランに反映してる。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、又は、日々に生活の中で、ご本人やご家族様より入居前にどのような生活を送られていたかを聞いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、その方が穏やかかつ安心して生活できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり、本人に参加していただき意見を取り入れ、同意していただけるようにしています。認識の得られない利用者様には御家族様と連絡を取り、職員の意向と御家族様の意向を検討して方針を決定するようにしています。		現在、新たなケアマネージャーを迎え新しい書式のテストを行い、より良い介護計画の実現に向けて活動している。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や見直しが必要な場合はフローア会議にて新たな方針や対応策など検討しすぐに現場に反映させている。また、長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月、ケア内容は毎月見直しを行っている。		書類の記入や家族様のサインが後手後手になるケースが多くありアセスメント、カンファレンス、立案、実施、記録、評価、再アセスのシステム化を現在試行錯誤している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には、日常の当たり前に行う生活歴ではなく、利用者様の会話や変化、思いや意見、意向を利用者様主体で記録していくように指導している。		記録の内容には職員の力量が顕著に現れており、利用者様の生活が生き生きと表現されているケースと表現力の乏しいケア内容だけ記されているケースと格差がある。国語力の指導は難しい課題であるが社内研修などで学んで頂いて向上を目指している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を生かした支援は出来ていない。		どのような事業所があるのかを把握し、要望に応じて柔軟な支援が出来るよう努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には運営推進会議に参加して頂き情報交換等を行い、消防の方とも自主訓練を通して指導、相談を行い支援して頂いている。教育機関は職場体験の受け入れを続けて行い繋がりを持つようにしている。		地域の資源にはもっと多くの力をお借りしたいと考えている。お互いが手をつなぎあうためにはどういった社会参加が必要か模索中である。教育機関は職場体験の受け入れを続けて行い繋がりを持つようにしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同じ町内のホームを訪問しケアマネジャーの方と話したり、電話で連絡を取り合ったりしている、利用者様の意向に合わせ町の主催のイベントや町内会の行事に参加等行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センター、健康福祉課の方とは、運営推進会議等でご指導を頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様や本人の希望の医療機関へ受診できるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、認知症の専門医を抱えるメディカルホットラインというシステムを、本社が岐阜に創設予定であり、今後期待される。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師と契約し24時間体制で相談指導に当たっていたいており、医師とも連携をもって支援していただける。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院にいった場合、医師やソーシャルワーカーと話し合いを持ち家族様の同意のもとで積極的な意見や情報の交換を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師からの情報を、ご家族様に報告し今後の方針を話し合っている。また必要に応じて医師のところへご家族様と訪問し直接話し合いを行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師と常にコンタクトを取りその方にあったケアを提供できるようにしている。今後、起こるであろう症状について説明を受け、相談を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人、ご家族の不安を少しでも軽減するために、十分な話し合いを持ち、情報交換行えるように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者様個人の尊厳やプライバシーに配慮しケアを行えるように支援している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	選択肢を常に置く事で自己決定を促し、自己選択することで満足感を得られるように支援している。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	少人数であるのに職員の都合や事業所の都合で利用者様を二の次にしては個別ケアではなく集団ケアに陥ってしまうと考える、出来るかぎり利用者様の意向を優先するように配慮している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	美容院の付き添いや買い物の付き添いも行っており、本人の希望を家族様に伝え、協力もお願いしている。おしゃれや個性を重視し、意見を尊重している。	利用者様の経済状況と希望がそぐわないケースもあり調整がそのつど必要であり、プライドを傷つけないように配慮をしている。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	利用者様と食事を作る事は、なるべく参加して頂いている、普段は職員が利用者様の好みを把握した食事を提供している。準備や片付けはやりたい方にやりたい時だけ行っていた、強制的な雰囲気は与えていない。	毎日の生活の中で自分を生かせるシーンとして、役割と捉え食事の片付けを行ってくださる方が決まっており、皆で協力しながら円滑にしてくださっている。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	希望があれば嗜好品は自由に行える支援をしており、日常的に楽しんでおられる。	お酒やタバコも自由であるが楽しむ方は少なく、お菓子やコーヒーの嗜好が多い。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その方の排泄パターンを把握し、ケアを行っている。なるべくトイレでの排泄を促し、自立支援に努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望沿って毎日でも入浴できるが、夜間の入浴は対応していない。		通常家庭では、夜に入浴と思うので、夜間の入浴の希望に今後こたえられるようにしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に強制的な活動はないので、利用者様は自由に休息をとってみえ、家庭的で穏やかな雰囲気を楽しんでみえる。また、午前、午後、夕方、夜間と関わり方や活動内容を変えて、夜の安眠につなげている。		活動力の低下を予防するために意図的に、散歩、買い物、喫茶店などにお誘いし、活動力の向上を図り休息時間を削減する事はある。そうして夜間の安眠につなげている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や料理など過去得意であった事も疾病や認知症で行えなくなっており、プライドを守るために、時々やっていただく時も配慮を必要とする。また、声かけや手伝いがあればできる事もあるので計画性を持って支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個々のお財布を用意して、常に使えるようにしており、数人は自身にて管理されている。買い物の際も支払いをしていただけるように支援している。管理能力の保持と喜びを支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	別々の希望の重複が無いかぎり、可能な時間をつくり外出の支援を行い利用者様のニーズに応えている。		要望のない利用者様でも、喫茶店や散歩、外食にお誘いして、生活に楽しみを感じていただけるように支援している。今後、重度の方をどう外出支援していくか限界まで挑戦したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別にいきたい所に行く支援は行っているが、条件や状況による。		利用者様の身体状況で実現できかねること。一泊旅行や温泉を希望される利用者様もいるが実現していない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいている。郵便物も気軽に書いていただき、家族様にもお返事をお願いしている。妄想から警察に電話するようなケースのみ、間接的に制限を行う場合もある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	電話やお手紙の際、気軽に立ち寄って頂く様をお願いしている。訪問して頂いた際には、お茶やお茶菓子をお出しして気軽な会話と共に利用者様と過ごす親密な時間の確保をしている。また、夜間でも自由に行き来していただいている泊まりのケースにも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止という基本概念を職員は認識しており、身体拘束、薬物拘束、言葉の拘束を行わないように指導を徹底している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は階段に鍵があったが現在は開放し、1階2階のユニットを自由に行き来出来る様開放している。利用者様の行き来が増え交流が蜜になっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーの確保は出来ているが、居室内での様子が把握しづらいため、頻回の居室巡視を行い様子を把握している。夜間は鈴などを設置し居室の中での夜間の動きに対応している。		トイレ内や居室では、利用者様の様子が把握しづらいが、プライバシーも尊重したいので音や利用者様の癖、習慣を考慮して安全とプライバシーのバランスを考えてケアにあたっている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知度や自立度により、はさみやシップや塗り薬など自己管理していただいている利用者様もいる。又裁縫道具など管理している方の場合時折数の確認をさりげなくしており、安全を確保している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクアセスメント用紙を作成し、利用者様個人の予測できる事故や疾病、副作用の理解を促している。火災に関してはチェックリストにて日々点検している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が把握できているとは言えない。		定期的に緊急時対応の研修を行い全員が把握、対応できるよう早急に行いたいと思っている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等でも自治会の方や地域の方に協力をお願いしている。		実質的に誰が何をどうするか対策は考えられていない。しかし、水な非常食避難所の確保はされている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営推進会議では必ず生活リスクと拘束の関係について説明し、家族様の面会の際にも生活状況と予想されるリスクについてお話をを行うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りにカンファレンス機能を持たせ気付きを促しており、異変や異常に気づいた際には必ずリーダーに報告されるようになっている。又、リーダーは医師、家族様に報告し指示を出している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の把握をし、状況に応じて医師への相談を行っている。薬の追加や変更のあったときは、申し送りを行い確実に把握できるよう努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ホームで準備されている飲み物は多岐にわたり、手を変え品を変え水分補給に努めている。また、歩行や入浴時のマッサージ温タオルなどで排泄を促すなど行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは認知できる方は促しを行い、認知できない方はスタッフがケアする事で口腔内に問題が起きないように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の身体状況や疾病により、通常の食事が出来ない場合も適時補助食品やゼリー等で対応し水分と栄養が足りるように工夫をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを各フロアーに配置し、嘔吐物、体液汚染物、排泄物はブリーチ消毒してから取り扱っている。食器類は食器乾燥機と消毒を使い分けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理時の食材の温度管理、食器の消毒を行い、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい雰囲気作り、出入りしやすい環境づくりに努めている。玄関を開放し、花や植木を置くなどし、明るい雰囲気作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや、入居者様が作られた作品を展示し、明るい雰囲気作りに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥のベンチ、テレビ前のソファと食卓テーブルが主に利用者様の過ごすスペースになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者様の好みに合わせて好きに活用していただいております。家族様にも使いなれた、馴染みの品をお持ちいただくようお願いしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、消毒、エアコンの調整はこまめに行っている。また、銀イオンなどを活用して消臭、除菌にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室の手すり設置はされている。スペース的に狭い所は見守り、介助にて支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声かけで行えることは、利用者様のペースにてお付き合いし、出来る喜びを感じていただき、出来る事もたくさんあると思っただけよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	道路に面して建物が建っているため十分注意しながら散歩など楽しんでいただいている。花を植えたり、畑を作ったりして利用者様の楽しんでいただけるよう工夫もしている。		中庭をもっと活用し、楽しめるよう工夫していきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様の自立を妨げず、さりげないサービス提供で自尊心を大切にしていだけるようなサービスを行っています。